

どうたく ○銅鐸とは

銅鐸とは、弥生時代*につくられた青銅の鐘です。

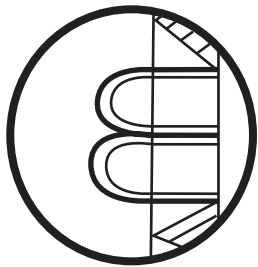
「お米がたくさんとれますように」とねがったお祭りのときに、鳴らしていたと考えられています。茨木市にある東奈良遺跡からは銅鐸をつくるための道具がたくさん発見されました。

*銅鐸がつくられたのは、弥生時代のなかでも中期～後期（約 2,300～1,800 年前）といわれています。



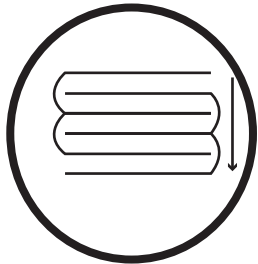
○東奈良遺跡の銅鐸*みどころポイント

さんついみみ
その1 *3 対耳



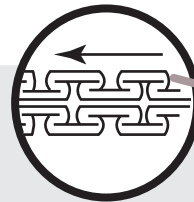
こんな太い線でお耳のようなかざりを3つ、右と左につけるよ。

たてがたりゅうすいもん
その2 *縦型流水文



お水が流れるような文様が、たてに続いているよ。

ちなみに！流水文は、よこに続くものもあるんだ。
横型流水文って呼ぶんだよ。



第1号流水文銅鐸鑄型からつくられた銅鐸は、まだみつかっていません。
まぼろしの銅鐸なのです

オリジナルペーパークラフト ご当地銅鐸のモデル

東奈良遺跡から、銅鐸をつくった鑄型がほぼ完全な形をたもって出土しました。茨木市以外ではまだ、完全な形のものは見つかっておらず、とても貴重なものです。この鑄型は、第1号流水文銅鐸鑄型とよばれ、国の重要文化財となっています。



*ご当地銅鐸は、第1号流水文銅鐸鑄型に残された文様を参考に復元しました。

茨木市立文化財資料館

どうたく 銅鐸をつくろう！ (ペーパークラフト)

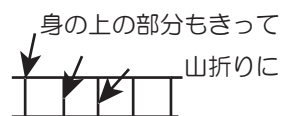
準備するもの ☆はさみ ☆のり ☆えんぴつなど、棒状のもの ☆セロハンテープ

〇つくりかた

- ① 赤い点線にそって、きりはなします。(①鈕・^{ちゅう ひれ} ②舞 ^{まい} ③身)

《A ②と③で銅鐸の身をつくります》

- ② きりはなしたら、②と③をさらに黒い線にそってきりぬぎます。

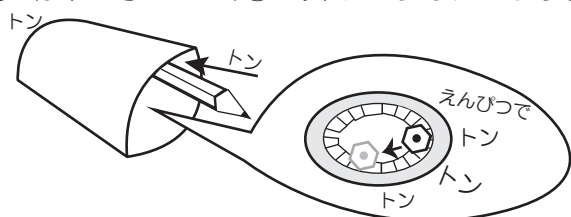


- ③ 灰色の線にきりこみを入れ軽く折り目をつけます。

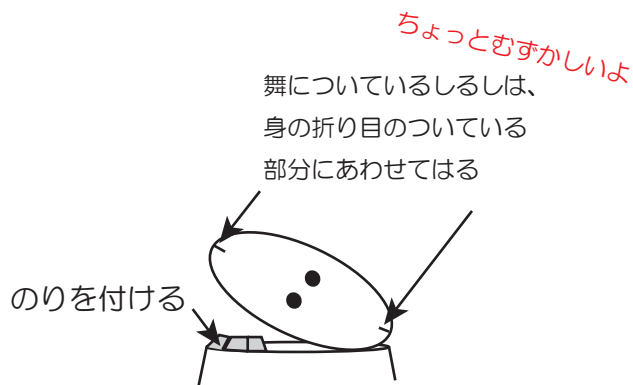
身の「のり」部分にのりをつけ、筒状にします。



- ④ 銅鐸の身の上に、③の舞をはりあわせませす。



のりをつけてはりあわせるときに、中からえんぴつなどの棒状のものでおさえるとはりつけやすいよ



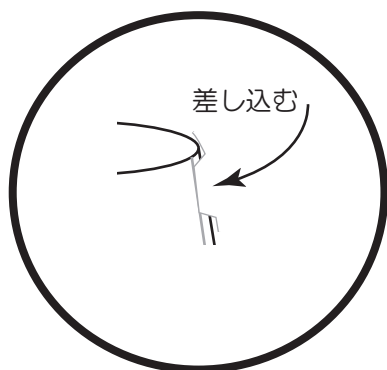
《B ①の鈕・鰭をつくります》

- ⑤ 灰色の点線を山折りにします。内面の白い方にのりをつけ、はりあわせませす。
はりあわせたものを、黒い線にそって、きりぬぎます。

スシがないように折って、表と裏の絵がぴったり重なるようにしよう！
ちょっとむずかしいよ

《C AとBをあわせ、しあげませす》

- ⑥ ⑤の点線を折り、身の横の空いているところにさしこみます。



さしこんだところに、内側からテープをはり、4ヶ所を固定します

